

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990900110		
法人名	エフビー介護サービス株式会社		
事業所名	グループホームエフビー木綿の郷		
所在地	栃木県真岡市下高間木一丁目7-1		
自己評価作成日	令和元年9月30日	評価結果市町村受理日	令和元年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop20
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和元年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街に立地しており、静かで落ち着ける環境での生活が出来る。また、1キロ圏内にドラッグストアや雑貨屋、食事処もあり。施設外でも外出される楽しみもある。木造平屋建ての温かみのある室内空間から、南側にはテラスからつながった菜園も覗くことが出来る。菜園で採れた野菜を調理して、季節ごとの食材を楽しむことが出来ます。認知症カフェも2年目を迎え、地域交流の場として貢献できるよう取り組んで参ります。家庭的な雰囲気を大切にしており、親しみやすい職員とともに、個別ケアと自立支援を基盤に、認知症があっても、本人様らしく生活が送れるように支えあえる施設を目指して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は入居前からの友人が来所し、一緒に食事や映画鑑賞に出かけるなど、馴染みの人と関係を途切れないうちにしている。定期的な手紙のやり取りを親戚や友人としている利用者もいる。
- ・食事委員会が中心になって利用者の意見を聞いて、献立を作成している。食事は手作りで利用者も野菜の皮むきなどを手伝いながら作っている。家族が来所時に食材の差し入れをしていく事がある。利用者の誕生日には、ケーキが振るまわれ、皆でお祝いしている。
- ・近隣にあるクリニックの医師が家族と訪問診療の契約をしてから、事業所は看取り体制の支援に取り組んでいる。職員は医師会主催の看取り研修に定期的に参加し、質の向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	気配り・目配り・心配りを職員共通認識により利用者様が安心して安らぎが持てる空間づくりを目指しその人らしい生活を送れる支援・援助への取り組みを実施し、朝礼や全体会議などで経営理念を唱和・復唱を行っている。	法人の経営理念が記載された手帳を全職員に配布し、毎日の朝礼や社内勉強会のときに唱和し確認している。理念の中でも「気配り・目配り・心配り」を重要事項として捉え、日々のケアへの共有実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校(運動会)ご招待を頂き参加し、スーパーやドラッグストアとの交流として、外出・買い物などへの参加をしています。真岡市社会福祉協議会などボランティアや真岡市介護相談員の受け入れております。	近隣の小学校の運動会に招待され、利用者が参加できるプログラムに参加している。社会福祉協議会を通しての歌や踊りのボランティア派遣だけでなく、地域の蕎麦打ち職人が来て御蕎麦を打ってくれる。	定期的に認知症カフェを開催しているが、参加者が少なく認知されていないため取組みの工夫を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も、認知症家族会や認知症カフェを開催して、地域交流の場として活動を続けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2月に1度開催をし、市の職員・町会長や民生委員・施設利用者様ご家族様などと意見交換をし情報交換などを行い。サービスや関係性のつながりを大切にしていけるよう努めております。	会議には、市の職員や自治会の方、民生委員、利用者の家族が参加している。2か月に1回の開催で、事故報告や行事の連絡・報告をしている。また会議で出た参加者のアドバイスも受けて、事業所の運営改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政への報告や提出書類など、常に支持を受けられるよう連絡相談を行っております。認知症家族の会等、市役所と協力関係構築に努めております。	緊急時の利用者の安全確保の為、市と協力して緊急時に防災無線などを活用しての取組みを検討している。市の担当者から介護報酬加算取得の為の提出書類のアドバイスをもらい、円滑な処理が行えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回社内研修を実施し、3か月に1度身体拘束適正化委員会を開催し、職員への身体拘束のないケアを周知できるよう努めて参ります。	職員が講師となって身体拘束をしないケアの研修を行い、身体拘束の防止に努めている。研修時にはチューブなどを活用し、身体拘束にあたる具体的な動画を見て学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段何気ない声のかけ方にも、スピーチロックになりえてしまうケースや安定剤などによるドラックロックなど、社内研修などを開催して共通理解ができるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉制度・介護保険法への概要を年に一度必ず社内研修を実施しております。自立支援への取り組み等普段より、職員間で話合っております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終結時において、サービス内容の説明・同意のもとで行っております。可能な範囲での、ご要望を聞き取り反映を行っております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や苦情窓口の設置しております。ご家族様面会時には、現状報告の中でご要望などを伺えるような姿勢を職員よりも意識しております。	運営推進会議やご家族来訪時に意見及び毎月行われるイベントでの改善案の意見をもらい、運営に反映させている。利用料の変更時には家族を集めて、利用変更の説明後に質疑応答の時間を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度は、全体会議を開催し職員間での意見交換の場を設けております。また、定期的に個人面談を行っております。	管理者は定期的に職員の個人面談を行い、ケア方法や仕事の内容、家族との関わり、職場の人間関係、プライベートな事の相談に乗っている。月1回、職員会議では職員全体の意見交換が行われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を導入しており、自己評価に対して評価や目標設定を面談を通じて実施しております。モチベーションアップへの効果的に取り組んでいます。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外への研修へ参加により学ぶ機会を、設けており、専門性への追及や、自ら講師を行い学び伝えることも大切にしております。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種研修などへの参加を通じて、同業者への関わりを深めていけるよう。職員意識をして参加しております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず事前訪問を行い本人様との会話の中から、情報収集をし生活生活歴などを知り施設生活が有意義なものとなるような関係づくりを目指しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入退去の際など、サービスに対する不安や要望など相談する時間を確保し、良好な関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できること・できないことを明確化し、本人のニーズを見極めていけるように、職員間ディスカッションを行い柔軟な対応に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の方同士が、共同生活の場を通じて共に支えあえる環境や個性への尊重を大切にいくなかでも、利用者・職員が対等な関係性を持ち続けられるよう支援して参ります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様との程よい距離感や関係性を、保てるように情報共有など職員が介入することで、共生の関係を意識して取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴など歩んでこられた人生観を尊重し、外出される機会や面会者への制限することなく支援に努めて参ります。	入居前からの友人が来所し、一緒に食事や映画鑑賞に出掛けている。定期的な手紙のやり取りを親戚や友人としている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性が保てるよう職員の介入や、家庭的な雰囲気の中で利用者様が孤立することないように共通言語など大切に支援に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても、他事業者とも連絡をとり、その後の様子など連絡できる関係性を大切に。ご家族様などお困りごとの際には、相談していただける体制確保に努めていきたいと思ひます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の意向・ご家族様への配慮を怠ることなく可能な限り、本人本位であるようにその方の立場になり検討していきたい。	家族が来所した時に、本人の入居以前の暮らしの情報を聞き取りしている。日々の生活の中の会話から本人の希望を聞き取り、家事などの手伝いをしてもらったり、レクリエーションに取り入れれたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様だけでなく、ご友人や面会に来られて知人である方などからも、情報が得られるよう配慮していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々状況の申し送りや報告書や連絡ノート・経過記録など職員間で情報共有を行っていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやミーティングを通じて、課題や根拠のあるケアの在り方などを見直し、家族様の要望など組み取り介護計画に反映していきたい。	ケアマネジャーが介護した状況と介護職の意見を取りまどめて、現場に則した計画作成を行っている。また家族からの要望も取り入れた介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過記録や温度板などで、職員同士で情報共有をして生活上での変化等から介護計画の見直しを検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ニーズへの対応を、柔軟かつ迅速なサービス提供のため、日々観察力や会話内容の把握に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域情報誌や広告紙より、得た情報を活用できる機会をより取り入れた支援を目指していきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方へは、継続して受診が行って頂けるよう必要に応じて、生活状況などをご家族様や、直接医療機関への連絡対応をしています。	基本的には家族がかかりつけ医へ受診同行をおこなっている。その際に、バイタルのデータや手紙を、家族に持参してもらっている。医療連携体制加算を取り入れており、週1回は外部の訪問看護師が利用者の健康をチェックしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週一回依頼しており、医療面の相談や受診の必要性など連携を図り、利用者様への支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携シートを活用しており、情報共有に努めております。入院中も面会などに伺い状態把握に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より見取りの介護方針の説明を行い、同意書を与えるような体制をとっています。また、多職種との連携を図り対応しています。	近隣にあるクリニックの医師が家族と訪問診療を契約してから、事業所は看取り体制の支援に取り組んでいる。職員は医師会主催の看取り研修に定期的に参加し、質の向上を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて緊急時の対応・事故再発防止を実施。また、管轄消防署や警備会社より緊急時心肺蘇生法など訓練を実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難経路など、利用者様と共に訓練を実施。災害時に備えて、避難訓練年2回実施としています。	年2回、消防署立会いの避難訓練を行っている。1回は夜間を想定した訓練を行っている。水やおかゆ、カップ麺などの食料品やライト、コンロなどを用意している。	備蓄の整備はしていますが、今後は消費期限などをリストアップして管理することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気でありながらも、高齢な方も多くあり、自尊心への配慮やプライバシー侵害しないように丁寧な対応を心掛けております。	定期的に職員研修を実施して、個人の尊重やプライバシーに配慮するケアを実践している。名前は個人の尊重と考え、基本的には氏で呼ぶようになっているが、利用者の希望で名で呼んでいる方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様より出来る事を、奪うことなく自己選択できるような環境整備を行い。日々コミュニケーションを大切に取組んでおります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者よりの視点とならないように、利用者様の生活リズムに沿った対応に注意し、可能な限り利用者本位の対応を心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択のできるよう、職員より配慮として日々の流れだけでなく変化をつけた対応なども行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を職員と共に行うことにより、食事に対する話題も増え、食事の楽しむ時間の共有や準備片付けなど役割づくりへの配慮している。	食事委員会が中心になって利用者の意見を聞いて、献立を作成している。食事は手作りで利用者も野菜の皮むきなどを手伝いながら作っている。利用者の誕生日には、ケーキが振るまわれ、皆でお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭で出来る範囲ではあるが、刻み食などへの配慮を行っている。食事量のチェック水分量チェックなども必要に応じて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアへの声掛けしている。また、ブラッシングでの口腔ケア以外でも洗口剤なども活用し、口臭なども生じないよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握により、失禁軽減により不快なく生活ができ、自然な排泄が行えるよう配慮しております。	排泄チェック表をタブレットで管理することで、いつでもどこでも必要な情報をすばやく正確に把握することができる。定期的な排泄の声掛けなどを行い、失禁軽減や自然な排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食物繊維の多い物やヤクルトなどの乳製品を提供し、体操など日常的に取り入れております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴スケジュールはあるが、利用者様一人ひとり入浴する時間帯の好みもあり、当日により職員が柔軟に対応しております。	利用者の希望を聞きながら最低週2回は入浴している。1対1で入浴介助を行っているが、利用者の状態によっては、安全に配慮して2人で介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の活動状況により、睡眠リズムも変化されるため、無理強いせず、入眠されたい時での対応に心掛けています。また、照明や室温など入眠されやすい環境への配慮を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬やセットミスがないように、継続して服薬マニュアルを活用しております。また、処方箋の内容など情報共有を、全職員が把握できるよう心掛けております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に好みや楽しみを聞き取り、本人らしく生活が送れるように共感や一緒に行える環境に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できる機会を設け、季節感を肌で感じ気分転換も図れるよう配慮していく。家族様や地域の方々との交流が図れるよう検討していきたい。	晴れた日には事業所周りを散歩して気分転換を図っている。定期的な外出の計画をして、桜の花見や紅葉狩りなどに出掛けている。また、回転ずしやファミリーレストランなどで外食もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様へのご理解が必要ではあるが、自己管理能力がある方へは、現金所有し本人様より買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所有されている、利用者様もおります。手紙などの配慮など今後取り入れたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温かみのある雰囲気があり、来訪者や利用者様より落ち着ける空間であるとの声が聴かれています。菜園にも、季節ごとの花や野菜を眺めることもでき、テラスのベンチでくつろげるスペースも十分あります。	リビングは大きな窓から採光が入り、観葉植物が配置された落ち着いた空間になっている。噴霧器を設置し感染症の対策をしている。年2回本部から環境チェックのための訪問があることで、日頃から事業所の環境整備が実行されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、気の合う利用者様同士が同じテーブルを囲むことが出来るよう配慮しています。また、たたみ和室で横になったり、洗濯をたたまれるスペースなどにもなっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家財を持ち込まれ、本人様を使い慣れた物や思い入れのあるものを持参されるように、ご家族様へもご協力頂いております。	居室にはベッドやタンス、エアコン、洗面が備え付けてある。希望により自宅で使用していた物を持ち込むことができ、居心地よく過ごすことが出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋でユニットが行き来しやすいことで、利用者様も活動できる広さと、バリアフリーと通路両脇に手摺が設置されており歩行しやすい。ホールと居室空間までの距離も程よい広さにあり、プライベート空間と共有スペースが確保できている。		